

令和元年度 子育てコミュニティトーク(1)保育所・保育園

日時 8月24日(土) 午前10時から正午まで

場所 市民交流プラザミュージックルーム1

テーマ1「地域との関わり方について」

●こども政策アドバイザー

最近気になることとして、共働きの世帯、核家族が増え、仕事が忙しいこともあり、近所の方と話すなど地域での交流、ふれあいがとても少なくなったと感じています。

こういった背景により、厚木市では県内で初めて「子ども育成条例」を策定し、「地域全体が子育て家庭を支える、大きな家族になろう」という理念を掲げ環境整備を進めています。地域では、青少年健全育成会、子ども会、自治会などたくさんの方が、登下校時に見守りをするなど様々な方法で子育て世帯を見守っています。いざという時に顔の分かる関係はとても大事ですし、ぜひ地域の方々とのつながりを持っていただきたいと思っているのですが、なかなかつながりが持ちにくい、という声も聴いています。

本日お聴きしたいこととして、1つ目は、地域全体で子どもを育てることに関して、日頃皆さんが感じていることをお聴きしたいと思います。2つ目は、関わりがなかなか持てない場合の理由をお聴きしたいと考えています。

地域の自治会や子ども会行事に参加しているのか、参加できない理由があれば、それを取り払い、地域に溶け込んでほしいと思っています。

●小学生の子どもがいますが、登下校時に地域の方が見守ってくれているのがありがたいです。

●小学生の子どもがいますが、登下校時の見守りはとてもありがたいです。地域の人たちとあいさつするだけでなく、少し雑談することもあり、優しく声を掛けてくれる温かい地域です。また、共働きのため子どもだけで過ごす時間があるので、児童館に指導員が常駐していることは、子どもが困ったときに頼れる場所として安心感があります。

●こども政策アドバイザー

今回は保育所(園)対象となっていますが、小学生の子どもがいると、地域の情報が入りやすいと思います。

●子どもがまだ小さいため、あまり近所の人たちとの接点がありません。子ども会の行事や地域のお祭りにもあまり参加していません。どこで情報を得たら良いのか分かりません。周囲にも新しい家が多く、近所付き合いが苦手な方もいらっしゃると思います。地域全体で子育てをするという実感がありません。

●こども政策アドバイザー

地域全体で子育てをするという取組は、地域によって様々です。子ども会や青少年育成会などが主催の行事は、小学生ぐらいの子ども向けが多いようです。自治会に入っていると行事の案内

チラシがあるので、子どもが小さいうちは地域との関わりが少なくても、子どもの成長に合わせて行事に参加するようになり、地域との関わりが段々と増えてくると思います。

●平日は仕事があるので、近所の方と接点がありません。しかし、休日には、近所の方と世代が同じこともあり、外で子どもが遊んでいる声がすると、子どもと一緒に外へ出てあいさつをするなどしています。上の子どもが小学生ですが、小学校の登校班がなく心配なので、近所の仲の良い友達と10人程で登校しています。集合時間を変更する場合などは、親同士が無料通話アプリで連絡をとっています。

●保育園と地域との交流を図るために、保育園と自治会が協力した取組があり、地域の方の畑を借りて子どもが収穫体験をするなど、保育園を通じて地域とのつながりがあるので助かっています。

一方、個人的に近所の方とつながりを持ちたいと思っても、同じ小学校に通う親同士でさえもつながるきっかけづくりは難しいと感じています。

●市内にある実家を離れて地域とのつながりがなくなりましたが、転居先で自治会に加入したら、地域とのつながりが生まれました。役員は大変ですが、それ以上に得るものがあると感じています。マンションにある地域の行事の張り紙を見て、参加できそうなイベントを確認しています。

●こども政策アドバイザー

市でも、色々な部署で催しを開催していますが、自治会や子ども会に入らないと得られない情報もあります。子ども会や自治会の役員は大変なこともあると思いますが、それ以上に得るものもあります。

●自治会の役員が回ってきたことで、地域との関わりができました。毎月掃除の日があり、子どもを連れて参加すると、知らない方でも声を掛けてくれたりします。自治会は住んでいる地区の自治会に入っていますが、上の小学生の子が、住んでいる地区と違う地区の小学校に通っているため、子ども会は子どもが通っている小学校の地区で加入した方が良いか迷っています。

●こども政策アドバイザー

住んでいる地区と違う地区の学校に通うのは大変なこともあると思いますが、メリットとして友だちが2倍になるということもあると思います。ここまで色々なお話を伺いましたが、災害が発生したとき、どのように子どもを守っていきますか。

●親と離れているときに災害があった場合、小学校までは距離があるので、子どもとは自宅から近い公園か児童館に行くように約束しています。災害ではないですが、不審者への対応として、登下校中に何かあれば大人がいるところに行くよう教えています。公園のトイレは薄暗いイメージがあるので大人の目がない公園で遊ぶよりも、指導員のいる児童館の敷地で子どもが遊んでくると安心です。同じ年代の親とも交流ができるので、児童館を活用させてもらっています。

●こども政策アドバイザー

危ない場所や安全な場所などについてお子さんと話し合いができていますが、皆さんは、児童館を使われたことはありますか。

●保育園と上の小学生の子どもは学童保育なので、児童館はほとんど使いませんが、場所は分かります。子どもたちは、家にいるよりも保育園や学童保育で過ごす時間が多いです。

●民間の学童を利用しています。大きな災害が発生したときは、親が迎えに行くまで学童で待っているよう子どもに話しています。

●児童館へは子どもが0歳児のときに、友人と数回行った程度です。

●こども政策アドバイザー

皆さんの感覚としては、災害時などで頼れるところは、学校や保育所ということになるのでしょうか。

しかし、いざというとき、例えば災害時などは、地域の中で一人きりでは生活できないと思います。皆さんが仕事をしている間、何かあったときどうするのか。子どもを迎えに行くまでの時間、子どもを誰に見てもらうのか。やはり地域しかないと思います。これまでも、災害時に保護者が保育所に迎えに来ることができなかつたとき、近所の方が家で預かってくれていた事例を聞いたことがあります。

また、子どもが公園で遊んでいて、保護者とはぐれてしまった際、顔見知りの地域の方が保護者の元に案内してくれたという話もあります。地域とのつながりを持つということは、防犯・防災上からも有効だと思います。また、子どもの成長のためには、家庭と保育所との往復だけではなく、いろいろな世代の方と会って、親とは違う人に怒られたり、褒められたりすることが子どもの成長の糧になります。

子どもが成長していくと、自発性や社会性が広がっていきますので、地域の祭りや防災訓練など色々な経験をさせてあげるなど、地域との関わりを持ってほしいと思っています。

テーマ2「子どもを守るための家庭での取組について」

●社会教育部長

大きなテーマですので、パソコンやスマートフォン（以下、スマホ）について絞った内容でお伺いしていきたいと思います。今の子どもは、生まれた時から、パソコンやスマホがある暮らしをしています。現代では、スマホ、パソコン、タブレット型PCなどは、便利で生活の必需品になってきていると感じますが、その反面、様々なトラブルを引き起こすなどの危険性も持ち合わせています。子どもが小さいとまだスマホを持たせることは考えていないかもしれませんが、動画サイトなどを見る機会は増えているのではないのでしょうか。現在の利用状況や子どもとの約束事などについてお話ししたいと思っています。

●現在、子どもにスマホや携帯は持たせていません。ゲームもやらせていませんが、動画サイトを見ることを可能にしたなら、ずっと見てしまっています。視力への悪影響があるので、必要でな

ければ、なるべくスマホを持たせたくないと思っています。近所の人のお話では、中学生になると、部活の連絡は無料通話アプリを使っていると聞いているので、その頃には持たせなければいけないのかなと思っています。

●同じくまだ持たせていません。子どもの送り迎えは近所に住む親に任せているので、親と連絡がとれれば、今のところ子どもが持っていなくても問題がありません。

●子どもだけで外に行く時など、時間や場を限定して、外出用にキッズ携帯を持たせています。GPSで位置も確認できるし、子どもが友だちの家で遊ぶときには、親との連絡手段として利用しています。寝る時間は20時と決めているので、やることを全て終わったら、20時までやって良いよと約束して利用しています。

●習い事に行く時、距離があるので、私は持たせたいと思っていますが、夫はまだ不要と言っており家庭内でも意見が分かれています。子どもが親のスマホのパターンロックを解除したことがあり驚いたことがありました。

●子どもがまだ小さいので、子どもにスマホを持たせることはまだ先のことですが、考える良いきっかけとなりました。操作できなくても、音声認識で色々なサイトに簡単につながってしまうので、怖いと思っています。行政や学校には、SNSなどでつながった先には怖いこともあるということをお小いうちから教える機会をつくってもらいたいと思います。また、SNSによる性被害も問題となっているので、子どもが大きくなって親の話を聞かなくなる前に、親や子ども向けの性について考える機会をつくってほしいです。正しい知識と対応方法を小いうちから教えることが大事だと思います。

●こども政策アドバイザー

青少年健全育成会で毎年講習をしています。今のお話は大変参考になったので伝えていきます。

●学校教育部長

各学校でも子どもたちには、スマホ教室を開き、SNSには危険があるということをお教えています。もっと早くから理解できるように考えていく必要があります。

●親としてもSNS上での危険について、子どもが良く分かるようにしっかり伝えていきたいと思っています。

●SNSを利用していますが、危険性を理解した上で利用しています。危険性を理解していれば、利用について大きなマイナスはないと思っています。

知らない人についていってはダメだよと教えています。親の知らない場所で毎日会っていれば、子どもにとっては知らない人でなくなってしまいます。親が知り合いでなければついていってはダメだと、分かりやすく子どもに伝えています。公園で子どもが知らないお婆さんからパンをもらって帰ってきたことがありましたが、ニュースで事件を見たことがあったので、子どもに

説明をして廃棄しました。スマホも今は親のスマホを使って子ども同士連絡を取り合っていますが、子どもも親に見られたくないこともあると思うので、スマホを持たせても良いと思えるような知識と親子間の信頼関係を小学生の間に築いていきたいと思っています。

●子どもだけで外に行く機会がないのでまだ持たせていませんが、外に行くようになったら持たせるようになると思います。子ども同士で動画サイトの話題をしていることがあるので、見ていないと話についていけない状況もできています。

●こども政策アドバイザー

ここ何年かスマホに関して、怖い話を聞いています。何気なく投稿した写真から、親の職業や家の情報など分かってしまうということもあるので、親として考え、危険性を勉強するきっかけになってほしいです。スマホを子どもに持たせたら、便利さだけでなく危険性も伝えていけるよう親として十分に準備してほしいと思います。

スマホの画面に集中している時の脳波は、科学的にもアルコール中毒やギャンブル中毒の患者と同じ脳波だそうです。便利なものですが、危険性も十分認識した上でスマホと付き合いしてほしいと思います。

●市長

歩きながらや自転車に乗りながらスマホを操作する「ながらスマホ」を良く見かけます。大人がやっていると、子どもはその姿を見て真似しますので、まずは御自身の使用について振り返っていただきたいと思います。スマホとの付き合い方は、便利なものですが危険な面もあるということ意識してほしいと思います。

見守り活動は、地域の皆さんの御協力できています。その原点は、市民協働です。まちが良くなるかならないかは、そこに住んでいる人たちと同じ思いで地域の課題を見つけ、協力して取り組まなければならないことです。社会は人とのつながりが希薄化する方向に動いていますが、つながりがある地域には温かみを感じますし、自分が子どものとき、地域とどのような関わりがあったか振り返ってもらい、人と人がつながってコミュニティをつくっていくこと、子どもたちにつないでいくことが求められていると思います。今回の意見交換では皆さんからのメッセージを受け取りましたので、市政の参考にしていきます。ありがとうございました。

いただいた御意見は、今後の市政運営の参考とさせていただきます。ありがとうございました。